



南の躍動

令和6年度 第2号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和6年9月12日



令和6年度全国学力・学習状況調査(大島地区)の結果から

大島地区の学力調査の結果を、令和元年から令和6年にかけて経年変化で見ると、小学校は横ばいの傾向、中学校は大きく伸びてきていることが分かります。中学校が伸びている要因としては、昨年度までのコアスクールプロジェクト等の取組が実を結び、各学校での授業改善が進んでいるものと考えられます。しかしながら、小学校・中学校どちらも、県の平均通過率を下回る結果であり、本地区の児童生徒に、「目に見える学力」を確実に身に付けることは、引き続き、私たちの課題となっていることが改めて分かりました。

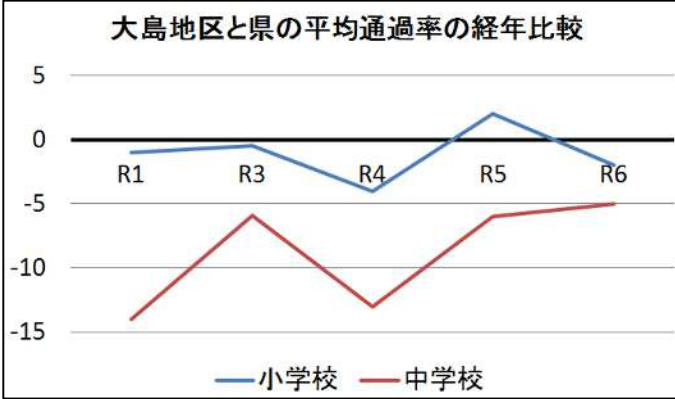
また、児童生徒質問紙の結果では、夢や目標に関する項目やICT活用に関する項目は国の平均を上回っているものの、自己肯定感や主体的な学びに関する項目は、国の平均を下回っていることが分かりました。私たちには、今後の授業改善を通して、「目に見えない学力」についても、向上を図ることが求められています。

【国平均を上回った項目】

将来の夢や目標を持っていますか	小6	中3
	+0.6	+1.6
PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	小6	中3
	+1.1	+17.6

【国平均を下回った項目】

自分には、よいところがあると思いますか	小6	中3
	-4.2	-0.1
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小6	中3
	-3.5	-1.7



大島地区の未来を担う児童生徒に確かな学力を養うことができるよう、各学校の実態を踏まえて、2学期の学習指導の充実を図りましょう。
※ 数値は、大島教育事務所による分析

服務規律の厳正確保

「規則遵守の指導を自分事として受け止めることができない背景」として以下のものが考えられます。

- 認識の欠如 : 「この規則が何のためにあるのか、よく分からない。」
- 指導への慣れ : 「前にも同じようなことを言われ、またかと思ってしまう。」
- 自己効力感の不足 : 「自分がこの規則を守るのは難しいと思う。」
- 価値観の違い : 「この規則は自分の文化や価値観と合わない。」
- 負担感覚の違い : 「規則を守るために多くの努力をしなければならず、その負担感が大きい。」
- 成果の見えにくさ : 「規則を守っても、具体的にどんな良いことがあるのかが分からない。」

※ ChatGPT-4oの回答を参考に作成

こうした背景と無縁であるために、自分を謙虚に律する一人一人の意識の醸成と、服務規律の厳正確保の実現を阻む考えや言動を許さない組織づくりに継続して取り組んでいきましょう。

魅力ある学校づくり

学校生活の中で、児童生徒が最も多くの時間を過ごす場は授業です。授業は全児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場です。自己指導能力を身に付けるための生徒指導実践上の視点を「授業」中に、意図的に埋め込んでいきましょう!!(登校したくなる楽しい学校 = 魅力ある学校)

学習指導と生徒指導の一体化(実践上の視点)

- 自己存在感の感受 ○共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供 ○安全・安心な風土の醸成

学校訪問を通して





授業での児童生徒の姿から、「毎日の積み重ねが、児童生徒の学ぶ力につながっているんだな」と感じる場面が多くあります。例えば、ICTの活用、複式学級のガイド学習、ペアやグループ活動の進め方などです。

2学期も積み重ねを大切に、児童生徒の学ぶ力をさらに伸ばしましょう。



地区道徳教育研修会(奄美市立奄美小学校, 徳之島町立井之川中学校)

今年度は、大島地区道徳教育研修会を2校で実施しました。昨年度同様の対面式の研修会となり、児童生徒が道徳科の授業の中でいきいきと自己の生き方について考える姿があったり、先生方が分科会の中で積極的に意見交換したりと、大変、有意義な研修会となりました。この研修会での学びが、それぞれの小中学校で活かされ、大島地区の道徳教育が更に充実することを願っています。

奄美市立奄美小学校の取組 令和6年6月5日(水)		徳之島町立井之川中学校の取組 令和6年6月20日(木)	
研修会の様子から	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入部分でアンケート結果を示したり、展開前段及び後段で道徳的価値についての見方・考え方を深めたりする場面において、教員共に進んでICTを活用する姿が多く見られました。 ○ 学習過程において、道徳的価値を資料を通して考える展開前段部分と資料から離れて自分のこととして考える展開後段部分が明確に分けられ、道徳的価値の自覚化を深めるための時間確保がしっかりとできていました。 ○ 児童が道徳的実践につながられるように、教師の説話を工夫したり、動画によるGT(ゲストティーチャーの活用)が図られたりして、効果的な終末への取組がなされていきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校のために、生徒の対話活動や意見交換する場が深まらないという課題を、補助教員が対話活動の中に入り、切り返しの問いなどを生徒に投げかけることで、様々なものの見方や考え方にふれさせることができたよう改善を図っていました。 ○ 授業の導入部分、展開部分、終末部分においてICTの活用が積極的になされており、生徒が価値の自覚化を深めるツールとして、効果的な活用が図られていました。 ○ 授業の合間に職員同士が道徳科の授業について話題にしたり、ローテーション授業が日頃から実践されたりしており、道徳科の授業を学校職員全員で行う体制ができていました。 	
	 	 	

令和6年度大島地区ジュニア・リーダー研修会

令和6年7月20日(土)・21日(日)の2日間、県立奄美少年自然の家において、本研修会が開催されました。本研修会は、所属団体の更なる活動の充実と活性化を図るため、ジュニア・リーダーとしての現状や課題を把握し、組織の運営等に必要な知識・技能に関する研修を行いながら、自ら主体的に取り組むジュニア・リーダーを養成することを目的としています。

参加者は、レクリエーションや事例発表、創作活動等を通して、交流や研修を深めました。今後、各市町村の子ども会活動等において、参加したみなさんが益々活躍することを期待しています。



レクリエーション



事例発表



文化・創作活動

与論の文化財等 ともり ～供利ハジャー伝来の花瓶～

「供利ハジャー伝来の花瓶」は、「供利ハジャー」という鍛冶屋跡(「ハジャー」が与論で「鍛冶屋」の方言)に伝来していた花瓶で、令和5年度に本町の指定文化財になりました。この鍛冶屋跡は、江戸時代に島の役人が指宿の山川から鍛冶職人を呼んで創建したと伝わっており、この花瓶はその鍛冶屋でのお祭りを行うためにいつの頃からか使われていたようです。実はこの花瓶、今から約500年前の中国産の焼き物で、類例は沖縄の首里城や今帰仁城といった王城クラスの城跡に限られます。来歴は不明なことが多いですが、与論と沖縄との関わりを伝える重要な文化財です。



【供利ハジャー伝来の花瓶】
与論町教育委員会生涯学習課からの写真提供

【タイトル横の写真】夏鳥の代表「リュウキュウアカショウビン」(龍郷町教育委員会提供)